

海外事務所  
だより

日仏自治体交流紹介  
—お互いの発展を目指して—

パリ事務所所長補佐 高橋 和司 (花巻市派遣)

パリ事務所

現在、フランスと日本の自治体間の姉妹

交流提携数は四八となっております(注)。しかし、そのほとんどは一九八〇年代から九〇年代にかけて提携されているもので、二〇〇〇年以降の提携数は六つにとどまっています。経済状況の悪化や合併などの地方自治体の取り巻く環境の変化により、海外、特に欧州の地方自治体との交流は選択しにくい状況になっています。

また、欧州諸国の自治体との交流は、相互訪問・人的交流などを提起しても現実には日本の自治体からの派遣が多く、ヨーロッパからの日本訪問は少ない状況にあり、両者の関係は対等の交流とはいえない状況があるように感じます。

そのような情勢の中で、本年、市川市(千葉県)とイッシー・レ・ムリノー市(フランス)、新潟市とナント市(フランス)の交流提携の場に立ち会う機会をいただきました

ので、ご紹介いたします。

— 都市間の交流

二〇〇九年四月一日、イッシー・レ・ムリノー市のサンティニ市長と千葉県市川市の千葉市長は和やかな雰囲気の中で、両市の今後の交流を確認する合意書にサインをしました。

イッシー・レ・ムリノー市(以下、イッシー市)は、イル・ド・フランス州オー・ド・セーヌ県に位置し、人口約六万三〇〇〇人、面積四・二五km<sup>2</sup>のパリ市の南に隣接する都市です。

電子自治体政策に力を入れており、窓口問い合わせに関するデータベースの整備、申請・届出手続一元化管理システム等を導入しました。そして、毎年「世界フォーラム・Eーデモクラシー」を開催し、世界的にも知

られております。

二〇〇五年には、世界テレポート連合(World Teleport Association, WTA) が発表する世界のインテリジェント・シティ・トップ7 (Intelligent Community of the Year 2005) に選出され、その政策力の高さが証明されました。

情報・通信・放送系企業が市内に多く立地しており、フランス・テレコム、マイクロソフト欧州本社、ヒューレッド・パカード、BFMTV、Canal+, フランス24などの企業が集まっております。

イッシー市は、東アジアではすでに中国北京市崇文区と韓国ソウル市九老区との間で姉妹都市交流を持っています。サンティニ市長は、さらに日本の首都圏での交流先を探していました。

パリ事務所では、イッシー市の交流相手先を探すため、東京都を含め、東京近郊の

隣県に広報を行いました。その結果、千葉  
県市川市が交流先として浮上りました。

市川市は、都心から二〇kmに位置してお  
り、人口は約四七万人で、IT技術を利用  
して市民から意見を聴取する「eモニター」  
システムやICカードを利用した証明書の自  
動交付機の設置などの取り組みを行い、イ  
ッシー市と同様に二〇〇六年の世界インテリ  
ジェント・シティ・トップ7に選ばれていま  
す。

サンティニ市長は予算・公共部門担当省  
の公共部門担当閣外大臣を兼務しており、  
二〇〇九年三月七日に大臣公務で日本を訪  
問する機会があり、その際に市川市を訪問  
し、市内施設やIT施策の説明を受け、今  
後の交流に意欲を示していました。

千葉光行市川市長をはじめとする市川市  
の訪問団は、四月一五日、午前にイッシー市  
の都市計画、窓口業務の説明を受け、午後  
にイッシー市にあるデジタルクリエイション  
センター「The Cube」と図書館の視察を行  
いました。

その後、イッシー市役所に移動し、交流  
合意書の記念式典が行われ、両市長により  
今後の協力関係を進めることの合意書にサ  
インがなされました。

式典は、終始和やかな雰囲気の中で執  
行われ、両市長とも今後の交流に大きな期  
待を寄せていました。

千葉市長はイッシー市の地元ケーブルテ  
レビ局の取材を受け、「アジアとヨーロッパ

の文化の違いの中で、ITという道具を使っ  
て交流を深めていくことが重要である。」と  
述べています。

市川市とイッシー市の交流は、情報都市  
づくりを目指す自治体の共通する課題に対  
して、IT施策を相互に学びあうことによ  
り課題の解決策を模索していこうとするも  
のです。

日本の自治体はしばしばヨーロッパの都市  
の例を参考にしながら解決策を講じてきま  
した。フランスにおいても、日本の自治体関  
係者が渡仏して地方自治体を訪問し調査す  
ることは多く行われています。しかし、フラ  
ンスの自治体関係者が日本の地方自治体を  
訪問する事例は少なく、日仏の対等な関係



↑交流合意書にサインするサンティニ市長と千葉市長

の構築にあたって課題となっています。

しかし、日本の地方自治体は、IT施策  
や様々な独自施策を展開しています。その  
ような地方自治体の事例を発信することで  
ヨーロッパの地方自治体との対等な協力関  
係を形成することができると考えます。

## 市民交流の先に

「ナント市と新潟市が交流を開始して一八  
年になります。長い年月を経過し、我々の  
友好関係は成熟しました。」ナント市と新潟  
市の姉妹都市提携調印式の席上でのナント  
市エロー市長の発言です。

二〇〇九年一月三日、フランス西部の中  
心都市ナント市と新潟市の姉妹都市提携の  
調印式がナント市役所で行われました。

ナント市はフランス西部のロワール川の河  
畔に位置しており、人口二八万人、ペイ・  
ド・ラ・ロワール州の州都です。ブルターニ  
ユ半島南東部に位置し、大西洋への玄関口  
となっています。一八世紀には、フランス国  
内一の貿易港として発展しました。現在、ロ  
ワール川河口の港サンナゼールとともにナン  
ト・サンナゼール港としてフランス大西洋側  
で最も重要な港として発展を続けています。

ナント市と新潟市の交流は、市民団体同  
士の交流から始まりました。一九九一年に  
新潟フランス協会が設立された際、駐日フ  
ランス大使館より交流相手としてナント市  
にあったアトランティックジャポン協会を紹



介されたのがきっかけです。それ以来、市民レベルでの交流が長く続けられてきました。両市それぞれで相手市の物産フェアを実施して地場産品を紹介し、両市ともワールドカップサッカー大会の開催地となり、その経験の交流も進められました。

並行して、行政間の関係も強化され一九九九年に交流協定を締結しました。その後も双方がお互いに音楽イベントへ参加したり、市職員を研修派遣したりと活発な交流を行ってきました。

活発な市民交流の結果、今回の姉妹都市提携にまで発展したのです。

行政主体で行う国際交流の場合、市民の中には、姉妹都市の意義が十分に理解されていない面もまま見られることがあります。



↑ 固く握手を交わすエロー市長と篠田市長

しかし、新潟市とナント市の交流は、市民が主体で行われてきたため、友人と友人の対等な関係で相互理解が図られてきました。新潟フランス協会の本間事務局長は、「行政の交流で双方の街づくり進展につながると思っています。しかし、姉妹都市になったからといって、私たちの交流が変わるわけではなく、これまでと同様に自然に発展していくものと思っています。」と語っています。

## おわりに

国際交流の意義の一つは、異文化間コミュニケーションの機会を通じて、それまで意識しなかった自分自身のアイデンティティを再

発見できることにあると思います。

それは人と人の交流だけでなく、行政と行政であっても共通です。行政同士の国際交流は、お互いのアイデアや課題解決方法を学びあたるな施策につなげることであり、それぞれの自治体がめざす目標のために、互いの個性を補完的に活用することを通じて、どちらにとっても利益が得られるという互恵性とその意義があると考えます。

特定分野での交流にしろ、市民同士の交流にしろ、お互いに刺激を与えられる関係が対等のものであることが、交流を継続していくためには必要なことと言えるでしょう。

（注）当協会では、姉妹自治体の統計処理を行う上で、①両首長による提携書があること、②交流分野が特定のものに限定されていないこと、③議会の承認を得ていることの基準を設け、この要件にすべて該当するものを姉妹自治体としております。



## 海外生活 だより

パリ事務所

# パリで書道交流

パリ事務所次長 多木 洋一（茨城県派遣）

パリには書道に関心を持つフランス人がたくさんいます。書道を通じた日仏交流についてご紹介します。

## パリの書道同好会

パリには在フランス日本人会という組織があります。一九五八年（昭和三十三年）に設立されて半世紀以上の歴史を持ち、パリに暮らす日本人の相互扶助組織といった性格の団体です。在フランス日本人会では文化活動やクラブ活動が盛んで、その一つに書道同好会があります。私も趣味で書道をやっているのです。よく訪問してみると、およそ二〇名ほどの方達が熱心に書道を学んでいます。多くは日本人ですが、フランス人も何人か交じっています。

パリの書道同好会の練習方法で日本の書

道教室と一番違うところは、先生の書いた手本がないということです。これは指導者である安本年子先生の考え方によるところが大きく、先生の字のまねはさせたくないという理由からです。自由の国フランスにふさわしく、それぞれの生徒はめいめい自分の好みに合った手本を選んで習っています。

## パリで書道展

書道同好会では三年に一回ほどのペースで展覧会を開催しています。会場はパリ国際大学都市の日本館です。パリ国際大学都市というのは、フランスの高等機関で学ぶ留学生や研究者のために作られた学生寮で、四〇か国もの寮があります。日本館もその一つで、講堂と玄關廊下にはかつてパリで活躍した画家、藤田嗣治の名画が飾られている

ことでも知られていません。

さて展覧会の準備ですが、日本なら専門業者に依頼すれば済むことですが、パリではそうはいきません。裏打ちから表具、飾り付けまで一切を自分たちでやらなければなりません。安本先生を中心に、みんなで協力して展覧会の準備万端を整えました。

フランスでは展覧会の初日にはヴェルニサージュといって、お客さんと呼んでパーティーを催すのが恒例になっています。私たちの展覧会の初日にもメンバーの知人友人が大勢来てくれて、賑やかなひと時を過ごしました。肝心の作品ですが、手前味噌ながらなかなか見ごたえのある作品が並びました。特にフランス人の作品は日本人とは造形感覚が違い、筆さばきも独特で、日本人にとってもたいへん興味深いものでした。

## ジャパンエキスポに出展

二〇〇八年のジャパンエキスポにパリ事務



↑パリ国際大学都市で書道展

所が出席参加した時のことをご紹介しよう。これは二〇〇八年が日仏交流一五〇周年であったこと、またJETプログラムにフランス人JETが参加して二〇周年であったことを記念して出展したものです。ジャパンエキスポというのは、マンガやアニメ、コスプレなど日本のポップカルチャーをフランスに紹介する大規模なイベントです。会場はパリ近郊のヴィルパント展示会場で、九万㎡もの会場に三五〇以上の出展者がブースを構え、一〇万人規模の来場者で賑わいます。会場ではアニメから抜け出てきたようなコスプレ姿の若者たちがこれ見よがしに歩きまわっています。

フランス人にとって日本のイメージと言えば、かつては西洋美術に影響を与えた浮世絵などのいわゆるジャポニスム（日本趣味）でしたが、その後はビデオカメラやオートバイなどの工業製品に取って代わり、そして今やマンガとコスプレです。ジャパンエキスポは、フランスの若者がいかに日本のマンガに夢中になっているかを如実に示すイベントになっています。

## フランス人に書道体験を

パリ事務所のブースでは書道について紹介することになりました。フランス人に書道の体験をしてもらうためには、実際に筆を持って墨汁で書いてもらうのが一番ですが、せっかくの衣装を汚したりしては気の毒です。

そこで水書き書道紙を使うことにしました。水をつけた毛筆で書くと、書かれた部分が黒くなり、乾くと消えて元通りになる紙です。フランスは空気が乾燥しており、書いた文字がすぐに乾くのでとても便利です。手本がなくては書きにくいだろうということ、漢字一文字を半紙に大きく書き、これをまねて書いてもらうことにしました。漢字は「友」「風」「和」「光」「永」「心」など、筆画が少なく意味の分かりやすいものを選びました。

さて、生れて初めて毛筆を持って漢字を書いたフランス人は、興味津々の様子でした。恐る恐る書き始めますが、だんだん大胆に筆を運ぶようになります。人によっては何度も何度も筆遣いの練習を繰り返し、「ああ、次の人に譲らなくては」と残念そうに席を立ちます。ある女性は「どうしてもアムール（愛）を書きたい」というので書かせたら、立派な漢字の「愛」が出来上がりました。

## フランス人の名前を漢字で

次に、フランス人の名前を漢字で書いてあげることになりました。

「あなたの名前を漢字で書いてあげますよ！無料ですよ！」  
と呼びかけるとたちまち人だかりができ、順番待ちの行列です。

「ボンジュール」

まずは挨拶から。フランスでは知らない人でも必ず挨拶を交わします。

「ボンジュール。お名前は？」  
「アンリです。」

発音をもとにどういう漢字を当てるか思案を巡らします。名前に使えるような良い意味をもった漢字というのはそう多くないので、けっこう苦労します。結局「安里」に決めて筆を執ります。

半紙を四分の一に切った紙に筆でサラサラと「安里」と書き、赤い印を押します。

「安らかなふるさとという意味です。」

と意味を説明すると満足そうに頷きます。

「メルシー。オ・ルヴォア！（さようなら）」

一人当たりの所要時間は一分弱。書いても書いても行列は一向に減らず、だんだん自分が姓名判断の占い師にでもなったような気分がしてきます。二日間で五〇〇人ぐらい書いたでしょうか。かなり疲れましたが、一度にこんなにたくさんの方のフランス人と会う機会はそうありません。一人ひとりの「メルシー」の笑顔が心に残りまし



↑ ジャパンエキスポに出展したクレアのブース